

Rotary Club of

国際ロータリー第2570地区
川越ロータリークラブ会報

vol. 37

会員数	100名	免除出席者	4名	正会員出席者	60名	出席者	64名	早退	0名	出席率	65.31%
-----	------	-------	----	--------	-----	-----	-----	----	----	-----	--------

プログラム

点鐘(12:30)／ロータリーソング(それでこそロータリー・四つのテスト)／ビジター・お客様紹介／卓話講師紹介／会長の時間／幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス／出席報告／卓話／点鐘(13:30)〈司会:島村SAA〉

会長の時間

2022-23年度 会長 石井成人

＜ビジター・お客様紹介＞

五十幡 和彦 (いそはた かずひこ) ガバナーノミニー 行田さくら RC
荻原 忠彦 (おぎわら ただひこ) 川越西 RC

＜卓話講師紹介＞

担当：国際奉仕委員会

講師：浅田 豊久 (あさだ とよひさ) 様

演題：バギオ基金について

＜会長挨拶＞



皆さんこんにちは、まず初めに理事会報告をさせていただきます。

今回は書面決議でクールビズの実施は5月1日から10月31日までと決定しました。

5月2日の例会は、ノーネクタイでジャケット着用となりますのでよろしくお願い致します。

今月は母子の健康月間です。今、開催中の通常国会でも少子化対策のための予算や家庭関係の社会支出の増額などが議論されています。2月28日にもお話いたしました。我が国の子供の出生数は年々減少しています。2022年の出生数は79万9,728人で、80万人をはじめて割り込みました。想定より11年も早くなっていました。

日本で一人の女性が何人の子供を産むか、いわゆる出生率は2020年では1.33人です。因みにフランスでは一時2.0人近くまで行きましたが、2020年には1.83まで低下しています。お隣の韓国では驚くことに0.78人という数字になっています。OECDの国の平均は1.59人だそうです。

政府は出産育児一時金を42万円から50万円に増額、その他にも経済面をはじめとして様々な施策を行うようですが、どうなっているのでしょうか。今、少子化と非婚化はほぼ同義語で、若年層の雇用が不安定になっているという経済的な理由、収入が不安定な非正規雇用は1989年の20%から2021

年には37%になっています。「自分が生きていくのに精一杯で、結婚して子供を産むなんて考えられない」という嘆きを耳にします。

4月1日に岸田首相の目玉である「子供家庭庁」が発足致しました。子供と家庭の政策の司令塔として、子育てしやすい環境づくりを政府を挙げて取り組むことが狙いです。首相直属の機関で専任閣僚と子ども家庭長官を置き、内閣府、厚生労働省、文部科学省の仕事をまとめ、総合的に施策を展開し、少子化や子育て、家庭に係る問題や教育など国の将来のために、ロータリアンとしても大いに期待するところであります。

安全安心に子供を産み育てられる、世の中にしていくことも我々の役割かと思えます。

ビジター・お客様紹介

■五十幡和彦ガバナーノミニー (行田さくら RC)

私は、2011-12年に初めて地区へ出向しまして、その時の立原ガバナーには大変お世話になりました。そして今回ガバナーノミニーになるにあたり、例会に出るよう勧められまして出席させていただきました。例会の内容はお聞きしていませんでしたが、本日の卓話が浅田パストガバナーと知り、有難いチャンスをいただいたと思います。

現在、私は次の年度に向けまして、相原研修リーダーおよび坂口研修委員長と一緒に新しい組織づくりに協力させていただいております。そこで改めて川越ロータリークラブの地区への貢献度や知識の豊富さ、そして様々な人材がこの地区の要職を担って第2570地区を作り上げていただいているのだと感じました。ぜひ次年度と次々年度も皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

幹事報告

2022-23年度 幹事 野溝 守



＜配布物＞

- ・会報 ・ハイライト米山 No.277
- ・卓話資料3種類

＜お知らせ＞

- ・「青少年交換説明会」のご案内
4/23(日)14時より国立女性教育会館にて開催
- ・「ロータリーの森」奉仕活動参加のお願い
5/27(土)10時より開催

委員長報告

- ・4月のお祝い <親睦委員会 上原委員>
- ・地区研修協議会 4月23日(日)10時より埼玉工業大学にて開催 <栗原会員>

次週卓話紹介

財団米山部門 <京野委員長>

担当：ロータリー財団委員会

講師：国際奉仕委員会 米原委員長

演題：グローバル補助金の活用について

講師：職業・社会奉仕委員会 金剛副委員長

演題：武蔵てらこや事業について

ニコニコボックス (荻原委員)

- 2570地区ガバナーノミニー五十幡和彦様ようこそ川越ロータリークラブにいらっしゃいました。今後共よろしくお願ひ致します。〈会長、幹事〉
- 一般社団法人比国育英会バギオ基金代表理事会長・2570地区2018-19年度ガバナー浅田豊久様お忙しい中、卓話講師ありがとうございます。よろしくお願ひ致します。〈会長、幹事〉
- 川越西ロータリークラブ荻原忠彦様ようこそ川越ロータリークラブにいらっしゃいました。ご子息之彦さんと一緒に例会を楽しんで下さい。〈会長、幹事〉
- 「バギオ基金」の卓話で訪問させていただきました。〈浅田豊久(東京六本木RC)〉
- 浅田豊久様、卓話楽しみにしています。若い頃金沢の浅田屋さんに年数十回お世話になりました。〈西澤〉
- 浅田豊久様ようこそ川越RCにお越し頂きました。本日の卓話、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。〈相原、山田(哲)、齊藤(智)、坂口、住谷、栗原、小高、小杉、西川、和田〉
- 五十幡さん(ガバナーノミニー)ようこそ!今後共御指導宜しくお願ひ致します。〈西澤、吉澤、齊藤(智)、相原、鈴木(壮)、水村、坂口、山田(哲)、栗原、小高、西川、和田、島村、上原、岩堀〉
- 息子がお世話になります。よろしくお願ひ致します。〈荻原忠彦(川越西RC)〉
- 川越西RC荻原忠彦様ようこそ。〈栗原、坂口、小高、西川、小杉、岩堀、小川、和田、金剛〉
- 23日(日)は、川越市議会議員選挙の投票日です。投票はみんなの権利です。みんなで投票に行きましょう。〈堀越〉
- 結婚記念日に美味しいお酒をいただき有難うございました。〈小峰〉
- 誕生日に美味しいお菓子をいただきました。ありがとうございます。〈佐藤(道)〉

合計64,000円

出席報告 (町田委員)

卓話

担当：国際奉仕委員会(奉仕プロジェクト部門 齊藤委員長より紹介)

講師：浅田豊久様
(一社)比国育英会バギオ基金代表理事会長
東京六本木RC 第2750地区
2019-20年度ガバナー

演題：バギオ基金について



本日初めて川越市に来まして、野溝幹事にご案内いただき、池袋から1時間も少ない所にこんな素晴らしい街があったのだと気づきました。今度は家族を連れて来たいと思います。本日は皆様にはあまり馴染みのないフィリピンのバギオの街において、日本のロータリーが中心となり、どのような活動をしているかなどをお話します。

まず明治維新で士農工商という身分制度がなくなり、廃藩置県が実施され、散髪脱刀令の告知により着物から洋服へ、まげから洋髪へと日本は近代国家を目指しました。廃藩置県により300余の藩主は華族に、武士は軍属になったと言われて

います。フィリピンは1851年以降スペインの領地となり、フィリピンという名前の由来もスペインのフェリペ2世が語源であるといわれています。しかし米西戦争でスペインが領地を手放した結果、フィリピンはアメリカ統治国になりました。このような国内外の変化が取り巻く中、日本からフィリピンへの移住者が増えました。その移住者の多くはバギオで道路建設に駆り出されました。バギオという都市は、ルソン島北部の山岳地帯にあります。

目的は、暑さ対策のために統治者のアメリカ人の発想により、バギオが海拔1,500mの高冷地であることから、避暑地として最適であると判断したからであります。作業に従事したのは江戸時代に侍だった者が多かったと伝わっていますが、日本人の見識が功を奏し、日本人への評価を高めることとなりました。

太平洋戦争が勃発すると、フィリピンは日米最大の激戦地となり、日系フィリピン人の多くは日本軍に徴用され戦死、フィリピンとの関係性が悪化し、戦後は日系人と分かれば迫害を受けたりしました。

シスター・海野さんは1911年静岡市生まれで、戦後第二の人生を自ら志願してバギオ市の修道院に赴任しました。そこで現地日系人の苦境を目の当たりにし、貧しい人々を救済、生活の向上に尽力しました。特に心血を注いだのが育英でした。

こうした彼女の願いにロータリアンが現地を訪れ、1981年に比国育英会バギオ基金を設立し、初代名誉会長には竹田氏(東京北RC)、初代会長には服部氏(東京銀座RC)が就任しました。その後、海野さんは我々ロータリアンをはじめ、日本の支援者に謝意を表すため、何度となく日本に戻り、感謝の輪を広げていきました。

ロータリアンの皆様にはこうした基金があり、その基金を日本のロータリアンたちが支えている事実を認識していただければと思います。

最後になりますが、私はロータリークラブに加入し、今年で50年目になります。金沢北ロータリークラブに入会した時に先輩からロータリークラブは「無用の用」(一目の網は鳥を得ず、鳥捕る網はただ一目)をしているということを理解し、将来活躍する場においても世のために役に立っているのだから頑張るようにと教えていただき、現在でもこの言葉は心に残っています。

